特別展

# 明治錦絵×大正新版画

世界が愛した近代の木版画

2020 8.25(火)〜9.22(火・祝)

神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

## ごあいさつ

このたび、4 月に中止となってしまいました特別展「明治錦絵×大正新版画―世界が愛した近代の木版画―」を、改めて復活開催いたします。

本展は、本年に開催を予定しておりました東京オリンピック・パラリンピックにあわせて開催を予定しておりました。世界に誇る、日本を代表する美術といえば浮世絵として知られているからです。来日される多くの外国の皆様とも、木版画の精華をともに堪能しようという目的がありました。しかしながら、新型コロナウィルス感染症の感染拡大により、残念ながら、中止となってしまいました。このたびはご所蔵者関係各位のご了解のもと、感染症感染拡大防止の対策を実施した上で、改めて開催する次第です。

本展では、世界へ発信された近代の木版画の軌跡をご紹介します。世界に誇る木版画は、実のところ、明治大正昭和という近代に発信されたものでした。そこで版元として活動した二人に焦点をあてて、近代の木版画の歩みをご紹介します。ひとりは幕末から活動を開始した大倉孫兵衛、もうひとりは新版画の版元としては遅咲きの土井貞一です。二人の版元に共通したのは、海外市場を意識したことです。海外に顧客を求めつつ、販売を通じて日本を発信したという役割を、彼らと彼らが生み出した作品に見ることができます。明治そして大正・昭和へ、変質していった木版画の展開を追いつつ、世界へ日本の美しさを伝えた多彩な作品をご覧ください。

本展の開催にあたり、蒐集家土井利一氏、クリスチャン・ポラック氏をはじめ、ご所蔵家並びにご所蔵機関に多大なるご高配を賜りました。さらに本図録刊行にあたり、新生紙パルプ商事株式会社より、多大なるご支援を頂戴しました。改めての開催へのご快諾、継続してのご支援を賜りましたことに対して、ここに記して、厚く御礼申し上げます。

令和 2 年（2020）8 月

主催者

ご案内

■本パンフレットは、本特別展の鑑賞用です。

■本展における感染症感染拡大防止の対策等については、最終頁をご覧ください。

■スマホ用解説アプリ「ポケット学芸員」で、本特別展の展示解説を配信しております。音声、画像も見ることができます。

■本展では、作品保護のため、照度を低くしております。

■本展の展示順は、本展図録とは異なります。

■ I-I《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》は、展示替します。

■本展に関するご質問等につきましては、展示室出口付近に設置しております「質問用紙」にご記入ください。後日、担当よりご回答申し上げます。

■本展は、平成 31 年度～令和 3 年度科学研究費補助金調査研究基盤研究（C）「近代日本美術史における大倉孫兵衛の活動に関する総合的調査研究」（19K00187　角田拓朗）の研究成果の一部です。

# 第一部　解説

## ■大倉孫兵衛

（おおくら・まごべえ　1843 ～ 1921）

大倉孫兵衛は、慶応３年（1867）頃から明治 23 年（1890）頃まで錦絵の版元として活躍しました。日清戦争期（1894 ～ 95）を最盛期として、近世以来の栄華も終わりを迎えます。つまり、孫兵衛は錦絵黄金時代の最末期に活躍した版元といえます。版元とは、絵師や彫師、摺師を組織して、資金を準備して、錦絵を生産販売する責任者です。他の解説でも触れるように、孫兵衛はこれまで錦絵の版元として注目されることは、ほとんどありませんでした。孫兵衛は製陶業界の経営者としてよく知られていましたが、平成 30 年（2018）、ここに紹介する画帖７冊が初公開されたことにより、孫兵衛の錦絵版元としての活動が、大きく注目されることになりました。

## ■輸出陶磁器の世界

孫兵衛がこれまでに主に知られていた業績は、錦絵から展開した出版業ではありません。むしろ輸出陶磁器に端を発する製陶業でしょう。明治十年代半ばから始まった輸出陶磁器の事業は、明治 37 年（1904）に日本陶器合名会社を興し、現在のノリタケカンパニーリミテドへとつながっていきます。鑑賞用陶磁器から食器まで幅広く制作し、ノリタケブランドができあがっていきました。またその製陶事業から派生して、今日の日本ガイシや TOTO が誕生しました。孫兵衛は息子和親とともに、それらの事業を展開しましたが、最晩年に「道楽」と称し興したのが、大倉陶園です。自らの理想を求め、「良きが上に良きものを」という信念のもと、高級食器の製造を目指した孫兵衛ですが、その初窯完成作品を見ることなく、この世を去りました。

## ■画帖１　輸出用錦絵

画帖１に収められているのは、輸出用の錦絵です。華麗な花鳥、そして美人。多くの錦絵には絵師の名前が摺られていません。絵師のブランドで販売していた国内向けの制作とは異なり、モチーフが充満した画面と過度に華美な色彩という、海外の嗜好にあわせた制作だとわかります。結果、大倉孫兵衛という版元の存在が浮かび上がってきます。この画帖が登場したことにより、研究の世界でも一気に大倉孫兵衛への注目や関心が高まりました。経営者として裏方の存在、地味な存在と考えられていた孫兵衛ですが、この鮮烈な錦絵を見ると、彼の性格も再考する必要があるのかもしれません。考察すべき点はたくさんありますが、ほとんど開閉されてこなかった画帖であるため、彫と摺が制作当時のままここにありますから、その新鮮な味わいを堪能して欲しいと思います。過剰な、マニエリスティックな、錦絵のひとつの極点を存分に味わって欲しいと思います。

## ■画帖２

画帖２の表には、シリーズもの「東京名所三十六戯撰」「各大区纏鑑」が収録され、裏には美人画が貼り込まれています。時代順のようでそうでもなく、不思議です。さらにこの画帖が面白いのは、多くの作品が収録されているからだけではなく、普通は破棄されてしまう、版行されない作品を含むからです。「各大区纏鑑」には空欄の作品があります。これから文字を入れるようにしたのでしょうか？あるいは空欄のママ売り出して、手書きで加えたのでしょうか？色々と想像が膨らんで、とても楽しめるのです。

## ■画帖３、７

画帖３には役者絵が主に収められています。江戸時代、娯楽の代表格にあったのが歌舞伎です。そこで活躍した役者たちのブロマイドとして役者絵は機能していました。今日の芸能人のポスターや画像と同じだったのです。人気商品だったからでしょうか、大写しになった役者絵は、たいへんに丁寧な彫と摺が認められる力作です。孫兵衛も版元として彼らの姿が描かれた錦絵を多く作っていました。ただ、ここに収められたいくつかの作品は、それ以前に別の版元から版行されていた作品の改版、再版になります。画帖７も同様に、他の版元の改版です。今日ほど著作権が厳しくなく、また版権を譲り受けることも難しくなかった時代の一例といえます。

## ■画帖４

画帖４に主に収められているのは、大判錦絵を三枚横に連続して並べ大画面として描く、いわゆる三枚続です。現在、孫兵衛が版行した最初の作品と確認される作品も含まれ、孫兵衛の活動のおよそを網羅することができる画帖でもあります。後年、輸出陶磁器に邁進していった孫兵衛の活動の端緒には、開港間もない横浜を訪れ、森村市左衛門と出会ったことにあるというエピソードはよく知られています。市左衛門との出会いばかり強調されてしまいますが、孫兵衛が実際に横浜を訪れたことは、もっと注目されて良いと思います。来日外国人相手に錦絵を販売しに、そして取材しに横浜を訪れたのでしょう。それがわかるのが、ここに収録する横浜浮世絵の存在です。版元として、開港場横浜の姿を伝えています。色彩とともに活き活きとした表情を見せる横浜浮世絵が制作された背景には、活況を呈す横浜を孫兵衛が実体験したからではないでしょうか。

## ■画帖５、６

画帖５と６に収められているのは、シリーズものです。シリーズものは、いわゆる大判錦絵という浮世絵の定型サイズ大の半分の大きさ（中判錦絵）です。販売単価は大判に比較して安くなりますが、シリーズ化することで継続した購入を促し、また画帖としてまとめた形態で販売するということで、全体の利益をあげることができたと考えられます。小さい画面になったからといって、内容が薄いわけではありません。むしろ細かく描き込まれた人物や景物が見所になっていますから、このことを考えると、かえって中判で連作をすることは手間も経費もかかったのではないでしょうか。「大日本物産図会」「大日本史略図会」いずれも版元大倉孫兵衛を代表するシリーズで、空の表現や人体の躍動的なポーズなどを見ると、西洋絵画に学び始めた時代の面白みを見ることができます。

☆ここにまとめる解説は、本展パネルやスマホ用解説アプリ「ポケット学芸員」に収録した内容と共通します。また「ポケット学芸員」では、さらに多くのコンテンツ、文字情報、音声情報、画像情報等を配信しております。ぜひ、ご利用ください♪

# 第二部 解説

■川瀬巴水（かわせ・はすい　1883 ～ 1957）

川瀬巴水は、新版画を代表する作家です。鏑木清方のもとで修行し、兄弟子にあたる伊東深水の風景版画に触発され、自らも同じ道を志しました。渡邊庄三郎のもとで風景版画家として大正 9 年（1920）にデビューしました。一挙にその才能は開花し、以後、一貫して風景を描き続けました。彼の作品は当初から海外の愛好者を生み出し、今日に至るまで海外のコレクターが多数おります。江戸時代から継続しているようにみえる木版画文化は、巴水らの大正以後の活動や活躍により支えられ、海外のコレクターらによる評価が逆輸入されるかたちで、今日につながっているといえます。

■川瀬巴水　東京二十景

巴水の代表作として名高いシリーズ「東京二十景」は、大正末年から数年かけてつくられました。つまり、関東大震災で荒廃して以後の東京に取材したわけです。東京という土地に取材する風景版画といえば、たとえば初代歌川広重「名所江戸百景」などがすぐに想起されるでしょう。そしてそれを典拠とした名所、構図が想起されます。しかし、巴水はそれにこだわることなく、とはいえ江戸から継続された東京らしさ、拡張する東京という都市を意識して取材したと考えられます。特に自身が居を構えた馬込周辺、現在の大田区に取材した作品が多くあります。その中で企画担当者（TT）が一目惚れした一点は、「矢口」です。からりと晴れた空にぐっと立ち上がる夏雲、お天道様に照らされながら歩を進める荷馬車、ゆったりとした多摩川の流れをはさんで、ゆったりとした夏の一コマが描かれます。摺師の巧みな技術で水面も空もぼかしが効いていて、ぐ～っと画面が広がっていって、とても気持ちの良い一点です。

■土屋光逸（つちや・こういつ　1870 ～ 1949）

土屋光逸は、明治期に活躍した浮世絵師小林清親に学びました。日清戦争に取材した錦絵でデビューしますが、すでに時代は錦絵が社会の主役から終わろうとしていた頃。結果、光逸は活躍の場を失います。師清親ら小林家を支えつつ、輸出向けの絵画を描きながら、時を過ごします。昭和 7 年（1932）、転機を迎えます。渡邊庄三郎に乞われ、新版画の絵師としてデビューするのです。以後、宵闇が印象的な、深みのある風景画家として、まさに大器晩成の絵師でした。師清親は、西洋絵画の陰影や空間を学び、明暗のコントラストの美しい風景画を描き、光線画と称されていました。時代が昭和となり、弟子である光逸がその光線画を継承し、新版画として復活させたといえるでしょう。

■土屋光逸　東京風景

光逸が新版画の作家として、特に風景版画の名手として認知されることになったのは、シリーズ「東京風景」です。見所は、抑制された色調、藍、青を基調とした闇の深さでしょう。巴水と比較して寒色系が基調となり、ヌエットと比較すればより湿潤である光逸の作風は、先行する川瀬巴水らと対照的になるように、そして師清親が実践した光線画を思慕した、あくまで光をほのかなものと扱う意識が顕著といえます。そのなかで企画担当者（TT）が最も惹かれた作品は、「銀座の雨」。雨に濡れ細る柳、デパートのから漏れる光とそれを反射する路面。昭和初頭のモガが闊歩した華やかさでもなく、今日の賑やかさでもありません。しかし、どこか暖かく、また明治以来の文化最先端の土地の穏やかな姿を描く作品なのです。

■土井版画店

本特別展は、新版画のよくある展覧会とは、やや趣向の異なる企画意図がありました。それは土井版画店に焦点をあてようというものだったのです。版元土井貞一が関東大震災後に上野に構えた版画店で、巴水、光逸、ヌエットを主な絵師として版行しました。彼らの作品を制作し販売しました。貞一は、先行する渡邊庄三郎の仕事、またその作風も研究したのでしょう。そして自分のより好みに近い絵師や彫師、摺師と協同したのだと思われます。それがよくわかるのが、渡邊版画店による巴水作と、土井版画店による巴水作の比較です。前者のサンプルとして《東京二十景　馬込の月》、後者のサンプルとして《冬の月（戸山ヶ原）》を挙げましょう。一見すると、前者の闇が濃く見えるでしょう。渡邊庄三郎は比較的色を濃く、鮮やかな色味に仕上げます。一方、土井貞一は画面全体を抑制させた色調で整える、その意味で色を薄めに仕上げる傾向にあるようです。

■ノエル・ヌエット（1885 ～ 1969）

ノエル･ヌエットは、フランスに生まれたました。詩人として活動を始め、パリの文学サロンで日本人らと交流し、日本への興味を育みました。そして仏語教師を委嘱され来日したのが、大正 15 年（1926）のことでした。ヌエットは幼い頃、初代歌川広重の風景版画を見て育ち、その面影を探しに東京を散策しました。一度、フランスに戻った後、昭和 5 年（1930）に再来日します。以後、昭和 37 年（1962）にフランスへ帰るまで、太平洋戦争中でも日本にとどまりました。彼の日本への深い愛情が広く認められ、名誉都民になったほどです。現在判明している彼の作品は、すべて東京に取材しています。江戸の面影を追いつつ、近代都市東京の良さも見つめようとした点に、彼の素晴らしさがあります。

■ノエル・ヌエット　東京風景

ヌエットが土井貞一のもとから版画を版行することになった理由は、ヌエットの教え子が貞一の息子だったという縁があったからです。ヌエットの作品は万年筆で描かれ、色はついていないものでした。それを貞一らがサポートし、今ある作品に仕上がっています。貞一らが特に配慮したであろう点は、ヌエットの線質を活かすことだったでしょう。線が多い版画となるとどことなく銅版画の雰囲気に近いですが、銅版画のような硬質な線都とは異なります。そのペンの柔らかみが、ヌエット版画の見所のひとつです。抑制された色調も、どこか乾いた、冷徹に観察するヌエットのまなざしとマッチしています。その温かみと冷たさの均衡が、ヌエット作品の良さといえます。

ポケット学芸員 No.902 では、、企画担当者（TT）が 20 分間、展示解説しつづけていますよ！こちらも是非どうぞ！

今回のナレーションは、小学校２年生が挑戦しています！
かわいい声とともに展示をお楽しみください♪

博物館は古いモノしかない・・・という考えは、もう古いですよ!博物館は、現代にもつながっているんです。昔のモノは「今」をつくってきた痕跡であり、未来への大切な財産です。そのことを教えてくれるのが、このたび創られた陶板絵です。孫兵衛がつくった錦絵を、大倉陶園が現在の技術で陶板絵に復活させました♪

**★見どころ その3**

コイン
ロッカー

総合案内

正面玄関

エントランスホール

ミュージアム
ショップ

このゾーンでは、大倉孫兵衛について、関係する作品や資料とともにご紹介します。錦絵から出版業、製紙業、そして製陶業へと多面的に活動した傑物のご紹介です。

このゾーンでは、木
ての工程をご紹介し
摺のための道具、さ
錦絵が完成するまで
覧いただきます。さ
の後摺、異版の詳細
介します。

このゾーンでは、パネルなどで、本展のあらましについてお伝えします。ご覧いただいてから、展示へお進みください。

この記号は、解説アプリ「ポケット学芸員」を示しています。そして、この展示マップのなかで記号のある箇所で、解説が配信されております。密になることを避けるため、パネルの内容、さらに詳しい情報をアプリで配信しているというわけ！パネルを読むのがたいへんとう方、ご自宅に帰ってからでも読むことが可能ですよ！ぜひご活用ください♪

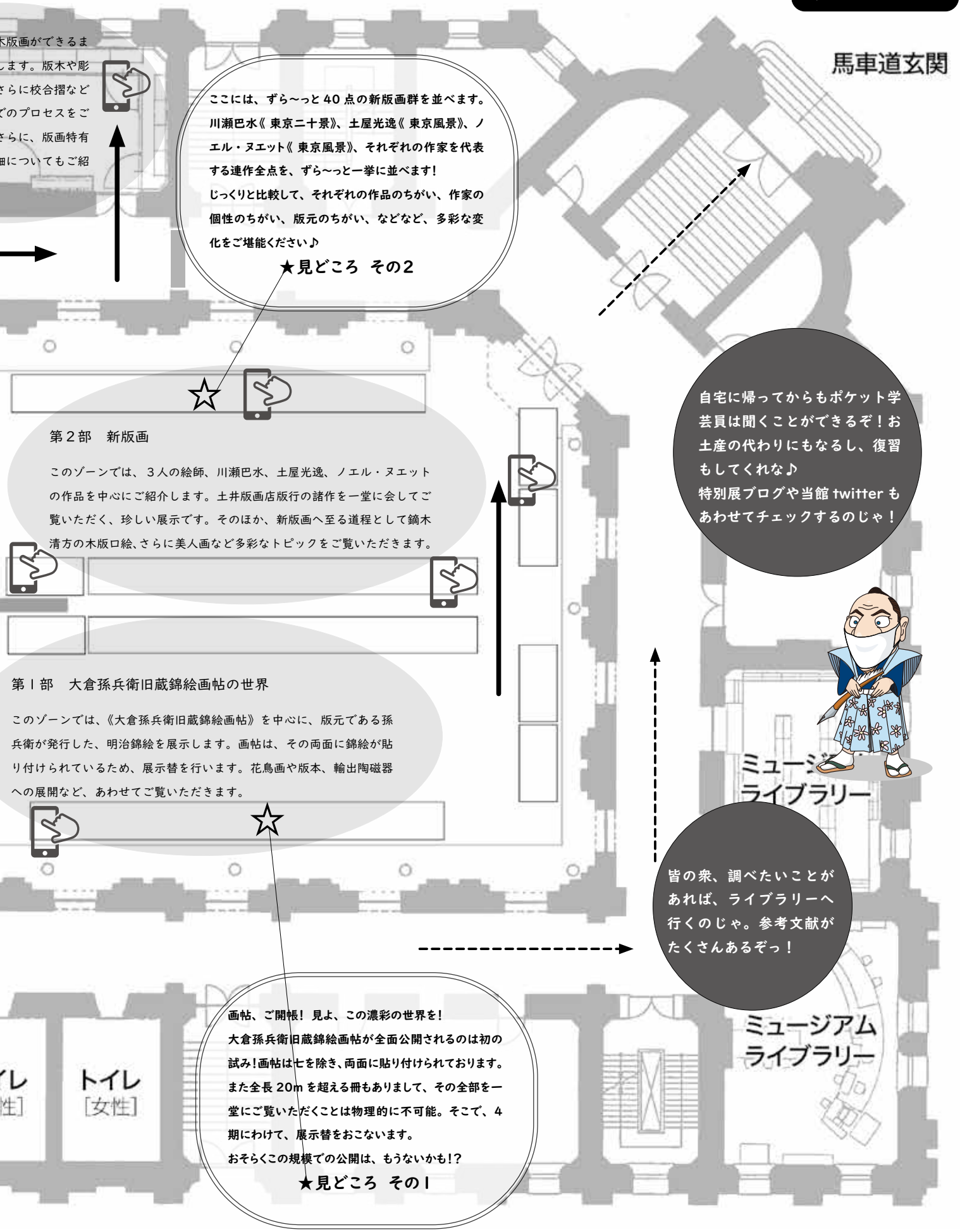
※マップの見やすさ、読みやすさを考慮して、すべての箇所に記号を付してはおりません

図録はここで買えるのじゃ。皆の衆、買うべし！

喫茶室

見学に疲れたら、ともしび喫茶でひと息つくのじゃ。版画はたくさんあるからつかれるのう。ここでひと息じゃ♪

# 展示マップ


馬車道玄関
木版画ができるま
します。版木や彫
さらに校合摺など
でのプロセスをご
さらに、版画特有
細についてもご紹
ここには、ずら〜っと 40 点の新版画群を並べます。
川瀬巴水《 東京二十景》、土屋光逸《 東京風景》、ノエル・ヌエット《 東京風景》、それぞれの作家を代表する連作全点を、ずら〜っと一挙に並べます!
じっくりと比較して、それぞれの作品のちがい、作家の個性のちがい、版元のちがい、などなど、多彩な変化をご堪能ください♪
★見どころ その2
第２部 新版画
このゾーンでは、３人の絵師、川瀬巴水、土屋光逸、ノエル・ヌエットの作品を中心にご紹介します。土井版画店版行の諸作を一堂に会してご覧いただく、珍しい展示です。そのほか、新版画へ至る道程として鏑木清方の木版口絵、さらに美人画など多彩なトピックをご覧いただきます。
自宅に帰ってからもポケット学芸員は聞くことができるぞ！お土産の代わりにもなるし、復習もしてくれな♪
特別展ブログや当館 twitter もあわせてチェックするのじゃ！
第１部 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖の世界
このゾーンでは、《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》を中心に、版元である孫兵衛が発行した、明治錦絵を展示します。画帖は、その両面に錦絵が貼り付けられているため、展示替を行います。花鳥画や版本、輸出陶磁器への展開など、あわせてご覧いただきます。
ミュージ
ライブラリー
皆の衆、調べたいことがあれば、ライブラリーへ行くのじゃ。参考文献がたくさんあるぞっ！
ミュージアム
ライブラリー
トイレ
[女性]
画帖、ご開帳！ 見よ、この濃彩の世界を!
大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖が全面公開されるのは初の試み!画帖は七を除き、両面に貼り付けられております。また全長 20m を超える冊もありまして、その全部を一堂にご覧いただくことは物理的に不可能。そこで、４期にわけて、展示替をおこないます。
おそらくこの規模での公開は、もうないかも!?
★見どころ その１

## 出品目録

【凡例】

〇1-1 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖については、紙幅の都合のため、別途、抜粋目録を掲載した。各画帖に収録される作品の詳細は、本展図録を参照されたい。

〇1-1《大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖》については、別途、抜粋した目録を本パンフレットに掲載した。

〇判型の各標準寸法は以下の通りである。なお、目録中も含めて、すべてセンチメートルである。

大判：縦 39.3 横 26.5、間版：縦 33.3 横 22.7、中判：縦 29.3 横 19.0、

三切：縦 37.8 横 17.5、角版（色紙版）：縦 20.5 横 18.5。

〇所蔵は、本目録の紙幅の都合により、記号で表記した。その詳細は、以下の通りである。

①当館寄託　②当館寄託（新生紙パルプ商事株式会社蔵）

③株式会社ノリタケカンパニーリミテド　④大倉陶園

⑤日本女子大学成瀬記念館　⑥土井利一コレクション

⑦土井版画店　⑧クリスチャン・ポラックコレクション

⑨明治大学図書館　⑩当館

〇本展は、1-1 について展示替を予定している。そのため、本目録に掲載されるすべての作品が一堂に並ぶわけではない。主な展示替予定は、7 頁を参照されたい。

〇本展に参考出品される、主要な作品や資料について、目録の末尾に、別途記載した。

| 出品番号 | 絵師・作家等 | 作品・資料名称 | 寸法 | 制作年・発行年 | 所蔵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1-1 | 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖 | | 外寸縦 37.4、横 25.8 | | ① |
| 1-2 | 孟斎芳虎 | 北条父子宇都宮城攻之図 | 大判錦絵三枚続 | 慶応4年 | ② |
| 1-3 | 大蘇芳年 | 明治小吏年間記事 | 大判錦絵三枚続 | 明治9年 | ② |
| 1-4 | 楊州斎周延 | 鹿児島城激戦之図 | 大判錦絵三枚続 | 明治 10 年 | ② |
| 1-5 | 廣田暁山 | 草木華鳥図会 文鳥白頭鶺海棠黄薔薇 | 大判錦絵 | 明治 11 年 | ② |
| 1-6 | 芝琳斎 | 新撰三十六花鳥 百合千鳥 | 大判錦絵 | 明治 11 年頃 | ② |
| 1-7 | 芝琳斎 | 新撰三十六花鳥 ねむの木美人草鶺鳥啄木鳥 | 大判錦絵 | 明治 11 年頃 | ② |
| 1-8 | 幸野楳嶺 | 楳嶺花鳥画譜 春三 海棠孔雀 | 大判錦絵 | 明治 16 年 | ② |
| 1-9 | 幸野楳嶺 | 楳嶺花鳥画譜 春十二 藤花青鶴 | 大判錦絵 | 明治 16 年 | ② |
| 1-10 | 幸野楳嶺 | 楳嶺花鳥画譜 秋九 断腸花鳥骨鶏 | 大判錦絵 | 明治 16 年 | ② |
| 1-11 | 幸野楳嶺 | 楳嶺花鳥画譜 冬九 蝋梅鸚鵡 | 大判錦絵 | 明治 16 年 | ② |
| 1-12 | 幸野楳嶺 | 楳嶺花鳥画譜 冬十 鳥鶲温牡丹 | 大判錦絵 | 明治 16 年 | ② |
| 1-13 | 幸野楳嶺著 | 『楳嶺百鳥画譜』 | 縦 24.5、横 17.4 | 明治 14 年 | ② |
| 1-14 | 児玉永成編 | 『新選古代模様鑑』天地 | 縦 25.0、横 16.3 | 明治 17 年 | ① |
| 1-15 | 渡辺省亭著 | 『省亭花鳥画譜』一、二、三 | 縦 24.5、横 17.4 | 明治 23、24 年 | ② |
| 1-16 | 葛飾北斎 | 『北斎花鳥画伝』 | 縦 22.5、横 15.3 | 明治 24 年 | ② |
| 1-17 | 松本楓湖ほか編 | 『日本歴史画報』第三号 | 縦 24.4、横 16.6 | 明治 25 年 | ② |
| 1-18 | 久保田米僊著画 | 『閨龍世界博覧会美術品画譜』一、二 | 縦 24.5、横 16.0 | 明治 26 年 | ② |
| 1-19 | 井口昇山工場 | 色絵盛上菊雀文皿 | 高 1.9、径 18.5 | 明治 20 年代 | ③ |
| 1-20 | 森村組 | 色絵金彩薔薇文蓋付飾壺 | 高 60.5、幅 29.5 奥行 23.0 | 明治 30 年代 | ③ |
| 1-21 | 大倉陶園 | 白磁薄肉彫蓋付菓子鉢 | 高 16.5、幅 23.0 | 大正 24 年 | ④ |
| 1-22 | 大倉陶園 | 百鳥画譜絵替り皿 | 径 26.0 | 現代 | ④ |
| 1-23 | 大倉陶園 | ブルーローズティーセット<br>カップ長径 12.0 高 5.5、ソーサー直径 15.0 高 2.0、デザート皿直径 20.5 高 2.0、ポット高 14.0、クリーマー長径 13.0 高 9.0、シュガー長径 15.0 高 9.0 | | 現代 | ④ |
| 1-24 | | 成瀬仁蔵宛大倉孫兵衛書簡 | 縦 22.2、横 15.2 | 明治 45 年 | ⑤ |
| 1-25 | | 成瀬仁蔵宛大倉孫兵衛書簡 | 縦 19.6、横 66.6 | 大正 7 年 | ⑤ |
| 2-1 | 川瀬巴水 | 冬の月（戸山ヶ原） | 大判錦絵 | 昭和 6 年 | ⑥ |
| 2-2 | 川瀬巴水 | 富士の雪晴（田子の浦） | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-3 | 川瀬巴水 | 暮るる雪（江戸川） | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-4 | 川瀬巴水 | 春之雪（京之清水） | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-5 | 川瀬巴水 | 春之雪（京之清水）〈校合摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-6 | 川瀬巴水 | 夜之池畔（不忍池） | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-7 | 川瀬巴水 | 春雨（護国寺） | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-8 | 川瀬巴水 | 五月雨（荒川） | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-9 | 川瀬巴水 | 東京二十景 芝増上寺 | 大判錦絵 | 大正 15 | ⑥ |
| 2-10 | 川瀬巴水 | 東京二十景 新大橋 | 大判錦絵 | 大正 15 | ⑥ |
| 2-11 | 川瀬巴水 | 東京二十景 神田明神境内 | 大判錦絵 | 大正 15 | ⑥ |
| 2-12 | 川瀬巴水 | 東京二十景 御茶の水 | 大判錦絵 | 大正 15 | ⑥ |
| 2-13 | 川瀬巴水 | 東京二十景 浅草観音乃雪晴 | 大判錦絵 | 大正 15 | ⑥ |
| 2-14 | 川瀬巴水 | 東京二十景 大根河岸の朝 | 大判錦絵 | 昭和 2 年 | ⑥ |
| 2-15 | 川瀬巴水 | 東京二十景 上野清水堂 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-16 | 川瀬巴水 | 東京二十景 千束池 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-17 | 川瀬巴水 | 東京二十景 池上市之倉（夕陽） | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-18 | 川瀬巴水 | 東京二十景 桜田門 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-19 | 川瀬巴水 | 東京二十景 明石町乃雨後 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-20 | 川瀬巴水 | 東京二十景 矢口 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-21 | 川瀬巴水 | 東京二十景 荒川の月（赤羽） | 大判錦絵 | 昭和 4 年 | ⑥ |
| 2-22 | 川瀬巴水 | 東京二十景 瀧之川 | 大判錦絵 | 昭和 4 年 | ⑥ |
| 2-23 | 川瀬巴水 | 東京二十景 桔梗門 | 大判錦絵 | 昭和 4 年 | ⑥ |
| 2-24 | 川瀬巴水 | 東京二十景 不忍池之雨 | 大判錦絵 | 昭和 4 年 | ⑥ |
| 2-25 | 川瀬巴水 | 東京二十景 月島の雪 | 大判錦絵 | 昭和 5 年 | ⑥ |
| 2-26 | 川瀬巴水 | 東京二十景 大森海岸 | 大判錦絵 | 昭和 5 年 | ⑥ |
| 2-27 | 川瀬巴水 | 東京二十景 馬込の月 | 大判錦絵 | 昭和 5 年 | ⑥ |
| 2-28 | 川瀬巴水 | 東京二十景 平河門 | 大判錦絵 | 昭和 5 年 | ⑥ |
| 2-29 | 川瀬巴水 | 東京二十景 上野清水堂〈試摺／薄版〉 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-30 | 川瀬巴水 | 東京二十景 桜田門〈別摺／柳版〉 | 大判錦絵 | 昭和 3 年 | ⑥ |
| 2-31 | 川瀬巴水 | 代地の雪 | 中判錦絵 | 大正 14 年 | ⑥ |
| 2-32 | 川瀬巴水 | 歌舞伎座 | 中判錦絵 | 大正 14 年 | ⑥ |
| 2-33 | 川瀬巴水 | 浜町河岸 | 中判錦絵 | 大正 14 年 | ⑥ |
| 2-34 | 川瀬巴水 | 山王の残雪 | 中判錦絵 | 大正 15 年 | ⑥ |
| 2-35 | 川瀬巴水 | 芝大門 | 中判錦絵 | 大正 15 年 | ⑥ |
| 2-36 | 川瀬巴水 | 日光華厳瀧 | 大判錦絵 | 昭和 2 年 | ⑥ |
| 2-37 | 川瀬巴水 | 日光ニッ堂 | 大判錦絵 | 昭和 4 年 | ⑥ |
| 2-38 | 川瀬巴水 | 浅草の朝の雨 | 大判錦絵 | 昭和 5 年 | ⑥ |
| 2-39 | 川瀬巴水 | 日光けごんの瀧 | 角版 | 昭和 11 年頃 | ⑥ |
| 2-40 | 川瀬巴水 | 十和田湖 | 角版 | 昭和 11 年頃 | ⑥ |
| 2-41 | 土屋光逸 | 請和使談判之図 | 大判錦絵三枚続 | 明治 28 年 | ⑥ |
| 2-42 | 土屋光逸 | 征清軍隊奉迎之図 | 大判錦絵三枚続 | 明治 28 年 | ⑥ |
| 2-43 | 土屋光逸 | 鎮遠号縦覧之図 | 大判錦絵三枚続 | 明治 28 年 | ⑥ |
| 2-44 | 土屋光逸 | 北海道大沼公園 | 紙、水彩、縦 40.0、横 19.4 | 不祥 | ⑥ |
| 2-45 | 土屋光逸 | 菖蒲 | 紙、水彩、縦 27.1、横 38.2 | 不祥 | ⑥ |
| 2-46 | 土屋光逸 | 唐美人 | 紙本著色、軸、縦 160.3、横 45.5 | 不祥 | ⑥ |
| 2-47 | 土屋光逸 | 鍾馗 | 紙本著色、軸、縦 177.0、横 52.2 | 昭和 24 年 | ⑥ |
| 2-48 | 土屋光逸 | 牛込神楽坂〈戦前初版〉 | 大判錦絵 | 昭和 14 年 | ⑥ |
| 2-49 | 土屋光逸 | 牛込神楽坂〈戦後直後摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 20 年代 | ⑥ |
| 2-50 | 土屋光逸 | 牛込神楽坂〈昭和四十年代〉 | 大判錦絵 | 昭和 40 年代 | ⑥ |
| 2-51 | 土屋光逸 | 牛込神楽坂〈平成摺〉 | 大判錦絵 | 現代 | ⑥ |
| 2-52 | 土屋光逸 | 東京風景 増上寺の雪 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-53 | 土屋光逸 | 東京風景 日比谷の月 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-54 | 土屋光逸 | 東京風景 弁慶橋 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-55 | 土屋光逸 | 東京風景 高輪泉岳寺 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-56 | 土屋光逸 | 東京風景 浅草観音堂 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-57 | 土屋光逸 | 東京風景 銀座の雨 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-58 | 土屋光逸 | 東京風景 隅田川水神森 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-59 | 土屋光逸 | 東京風景 柳橋 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-60 | 土屋光逸 | 東京風景 根津神社 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-61 | 土屋光逸 | 東京風景 四ツ谷荒木横町 | 大判錦絵 | 昭和 10 年 | ⑥ |
| 2-62 | 土屋光逸 | 東京風景 品川沖 | 大判錦絵 | 昭和 10 年 | ⑥ |
| 2-63 | 土屋光逸 | 東京風景 上野公園 | 大判錦絵 | 昭和 10 年 | ⑥ |
| 2-64 | 土屋光逸 | 東京風景 浅草観音堂〈校合摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑦ |
| 2-65 | 土屋光逸 | 亀戸天満宮 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-66 | 土屋光逸 | 京都二条城 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-67 | 土屋光逸 | 奈良猿沢の池 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-68 | 土屋光逸 | 浅草観音仁王門 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-69 | 土屋光逸 | 本栖湖 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-70 | 土屋光逸 | 精進湖 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-71 | 土屋光逸 | 根津神社 | 大判錦絵 | 昭和 9 年 | ⑥ |
| 2-72 | 土屋光逸 | 湯島天神 | 大判錦絵 | 昭和 10 年 | ⑥ |
| 2-73 | 土屋光逸 | 二見が浦 | 大判錦絵 | 昭和 10 年 | ⑥ |
| 2-74 | 土屋光逸 | 雪の宮島 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-75 | 土屋光逸 | 舞子の浜 | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-76 | 土屋光逸 | 真鶴港 | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-77 | 土屋光逸 | 横浜三溪園 | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-78 | 土屋光逸 | 横浜三溪園〈校合摺〉 | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-79 | 土屋光逸 | 田子の浦 | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-80 | 土屋光逸 | 安芸宮島 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-81 | 土屋光逸 | 夏の月 宮島 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-82 | 土屋光逸 | 夜の三井寺 | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-83 | 土屋光逸 | 雪の宮島 | 中判錦絵 | 昭和 12 年 | ⑥ |
| 2-84 | 土屋光逸 | 名古屋城 | 大判錦絵 | 昭和 12 年 | ⑥ |
| 2-85 | 土屋光逸 | 奈良興福寺 | 大判錦絵 | 昭和 12 年 | ⑥ |
| 2-86 | 土屋光逸 | 舞子の浜 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-87 | 土屋光逸 | 九州箱崎八幡宮 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-88 | 土屋光逸 | 瀬戸内海明石の港 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-89 | 土屋光逸 | 西湖の夕照 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-90 | 土屋光逸 | 箱根湖水 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-91 | 土屋光逸 | 上野清水堂 | 大判錦絵 | 昭和 15 年 | ⑥ |
| 2-92 | 土屋光逸 | 日光五重の塔 | 中判錦絵 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-93 | 土屋光逸 | 祇園の夜桜 | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-94 | 土屋光逸 | 矢橋の帰帆 | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-95 | 土屋光逸 | 堅田浮身堂の雪 | 大判錦絵 | 昭和 7 年 | ⑥ |
| 2-96 | 土屋光逸 | 瀬戸内海 鞆之津 | 大判錦絵 | 昭和 15 年 | ⑥ |
| 2-97 | 土屋光逸 | 雪晴の松島 | 大判錦絵 | 昭和 10 年 | ⑥ |
| 2-98 | 土屋光逸 | 水郷潮来 | 三切 | 昭和 12 年 | ⑥ |
| 2-99 | 土屋光逸 | 利根川 | 間版 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-100 | 土屋光逸 | 房州 小港 | 間版 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-101 | 土屋光逸 | 奈良 猿沢の池 | 大判錦絵 | 昭和 16 年 | ⑥ |
| 2-102 | 土屋光逸 | 日光神橋 | 大判錦絵 | 昭和 14 年 | ⑥ |
| 2-103 | 土屋光逸 | 東海道冨士川 | 大判錦絵 | 昭和 14 年 | ⑥ |
| 2-104 | 土屋光逸 | 甲州 河口湖 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-105 | 土屋光逸 | 三保の松原 | 大判錦絵 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-106 | 土屋光逸 | 夜の熱海 | 大判錦絵 | 昭和 14 年 | ⑥ |
| 2-107 | 土屋光逸 | 日光五重塔 | 大判錦絵 | 昭和 5 年頃 | ⑥ |
| 2-108 | 土屋光逸 | 森ヶ崎海岸 | 大判錦絵 | 昭和 5 年頃 | ⑥ |
| 2-109 | 土屋光逸 | 日光ニ荒山 | 大判錦絵 | 昭和 5 年頃 | ⑥ |
| 2-110 | 土屋光逸 | 天の橋立 | 三切 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-111 | 土屋光逸 | 田子の浦（カレンダー仕様） | 中判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑥ |
| 2-112 | 土屋光逸 | 木版画集「箱根選景」 | 各縦 9.7、横 14.3 | 昭和 13 年 | ⑥ |
| 2-113 | 土屋光逸 | 狸 | 三切 | 昭和 10 年代 | ⑥ |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2-114 | 土屋光逸 | 鷲 | 三切 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-115 | 土屋光逸 | 鴛鴦 | 三切 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-116 | 土屋光逸 | 孔雀 | 三切 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-117 | 土屋光逸 | 鴨 | 三切 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-118 | 土屋光逸 | 石楠花 | 大判錦絵 | 昭和 5 年頃 | ⑥ |
| 2-119 | 土屋光逸 | 石楠花 | 大判錦絵 | 昭和 5 年頃 | ⑥ |
| 2-120 | 土屋光逸 | Process of woodcut prints | 折本、19 図、外寸 縦 17.3、横 11.0 | 昭和 10 年代 | ⑥ |
| 2-121 | ノエル・ヌエット | 『 東京 一外人の見た印象』 | 縦 26.2、横 19.0 | 昭和 9 年 | ⑧ |
| 2-122 | ノエル・ヌエット | 『 東京 一外人の見た印象 二集』 | 縦 26.0、横 19.0 | 昭和 10 年 | ⑧ |
| 2-123 | ノエル・ヌエット | 『 東京 古い都・現代都市』 | 縦 26.0、横 19.0 | 昭和 12 年 | ⑧ |
| 2-124 | ノエル・ヌエット | 『 En écoutant le veilleur de nuit』 | 縦 18.5、横 13.0 | 昭和 15 年 | ⑧ |
| 2-125 | ノエル・ヌエット | 『 Papillons endormis』 | 縦 18.5、横 13.0 | 昭和 17 年 | ⑧ |
| 2-126 | ノエル・ヌエット | 『 Paris』 | 縦 18.5、横 13.0 | 昭和 42 年 | ⑧ |
| 2-127 | ノエル・ヌエット | 『 東京』 | 縦 26.0、横 18.6 | 昭和 21 年 | ⑧ |
| 2-128 | ノエル・ヌエット | 『 宮城環景』 | 縦 26.0、横 18.4 | 昭和 22 年 | ⑧ |
| 2-129 | ノエル・ヌエット | 酒井傳六訳『 東京のシルエット』 | 縦 21.6、横 15.7 | 昭和 29 年 | ⑧ |
| 2-130 | ノエル・ヌエット | 川島順平訳『 東京誕生記』 | 縦 26.0、横 18.4 | 昭和 30 年 | ⑧ |
| 2-131 | ノエル・ヌエット | 『 Histoire de Tokyo』 | 縦 21.0、横 15.0 | 昭和 36 年 | ⑧ |
| 2-132 | ノエル・ヌエット | 東京風景 目録 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-133 | ノエル・ヌエット | 東京風景 桔梗門 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-134 | ノエル・ヌエット | 東京風景 両国橋 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-135 | ノエル・ヌエット | 東京風景 日本橋 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-136 | ノエル・ヌエット | 東京風景 増上寺 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-137 | ノエル・ヌエット | 東京風景 不忍池 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-138 | ノエル・ヌエット | 東京風景 隅田川 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-139 | ノエル・ヌエット | 東京風景 桜田門 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-140 | ノエル・ヌエット | 東京風景 歌舞伎座 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-141 | ノエル・ヌエット | 東京風景 明治神宮 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-142 | ノエル・ヌエット | 東京風景 日比谷 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-143 | ノエル・ヌエット | 東京風景 靖国神社 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-144 | ノエル・ヌエット | 東京風景 井之頭公園 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-145 | ノエル・ヌエット | 東京風景 赤坂見附 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-146 | ノエル・ヌエット | 東京風景 黒門 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-147 | ノエル・ヌエット | 東京風景 芝 古川 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-148 | ノエル・ヌエット | 東京風景 弁慶堀 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-149 | ノエル・ヌエット | 東京風景 上野公園 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-150 | ノエル・ヌエット | 東京風景 紀尾井町 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-151 | ノエル・ヌエット | 東京風景 亀戸 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-152 | ノエル・ヌエット | 東京風景 馬場先門 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-153 | ノエル・ヌエット | 東京風景 池上本門寺 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧⑨ |
| 2-154 | ノエル・ヌエット | 東京風景 浅草寺 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑨ |
| 2-155 | ノエル・ヌエット | 東京風景 御茶の水 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-156 | ノエル・ヌエット | 東京風景 神楽坂 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-157 | ノエル・ヌエット | 「 東京百景」頒布会リーフレット | 縦 23.0、横 63.1 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-158 | ノエル・ヌエット | 東京風景 両国橋〈 墨摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-159 | ノエル・ヌエット | 東京風景 井之頭公園〈 墨摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑨ |
| 2-160 | ノエル・ヌエット | 東京風景 御茶の水〈 墨摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑨ |
| 2-161 | ノエル・ヌエット | 東京風景 不忍池〈 校合摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑨ |
| 2-162 | ノエル・ヌエット | 東京風景 明治神宮〈 校合摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-163 | ノエル・ヌエット | 東京風景 靖国神社〈 校合摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 11 年 | ⑧ |
| 2-164 | ノエル・ヌエット | 国会議事堂 | 縦 27.2、横 21.2 | 昭和 11 年 | ⑨ |
| 2-165 | ノエル・ヌエット | 東京 平河門 | 大判錦絵 | 昭和 25 年 | ⑨ |
| 2-166 | ノエル・ヌエット | 東京 神田明神 | 大判錦絵 | 昭和 25 年 | ⑨ |
| 2-167 | ノエル・ヌエット | 東京 井之頭 | 大判錦絵 | 昭和 25 年 | ⑨ |
| 2-168 | ノエル・ヌエット | 肉筆スケッチ「 歌川広重墓所」 | 縦 19.8、横 27.0 | 昭和 20 年 | ⑧ |
| 2-169 | ノエル・ヌエット | 絵葉書集「 TOKYO」 | 各縦 14.2、横 9.2 | 昭和 30 年代 | ⑧ |
| 2-170 | 石井柏亭 | 東京十二景 新ばし | 大判錦絵 | 大正 4 年頃 | ⑥ |
| 2-171 | 鏑木清方 | 五月雨『 今様 夏の巻』 | 縦 19.6、横 24.3 | 明治 45 年 | ⑩ |
| 2-172 | 鏑木清方 | 尾崎紅葉･原著『 金色夜叉絵巻』木版口絵 | 縦 16.5、横 22.4 | 明治 45 年 | ⑩ |
| 2-173 | 鏑木清方 | ゆふ暮『 文藝倶楽部』第十三巻第十二号 | 縦 29.0、横 21.8 | 明治 40 年 | ⑩ |
| 2-174 | 鏑木清方 | 伽羅『 文藝倶楽部』第十四巻第五号 | 縦 30.9、横 22.2 | 明治 41 年 | ⑩ |
| 2-175 | 鏑木清方 | いで湯のタべ『 文藝倶楽部』第十八巻第十一号 | 縦 30.9、横 21.9 | 大正元年 | ⑩ |
| 2-176 | 鏑木清方 | こすもす『 文藝倶楽部』第十九巻第十四号 | 縦 31.9、横 22.3 | 大正 2 年 | ⑩ |
| 2-177 | 橋口五葉 | 盆持てる女 | 縦 38.3、横 25.2 | 大正 9 年 | ⑩ |
| 2-178 | 橋口五葉 | 紅筆を持てる女 | 縦 38.5、横 27.0 | 大正 9 年 | ⑩ |
| 2-179 | 橋口五葉 | 夏衣の女 | 縦 43.8、横 27.9 | 大正 9 年 | ⑩ |
| 2-180 | | 『 大近松全集』木版附録 | 大判錦絵 | 大正 11 ～ 14 年 | ⑥ |
| 2-181 | 鳥居言人 | 髪梳き | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-182 | 鳥居言人 | 髪梳きく 絶版摺〉 | 大判錦絵 | 昭和 8 年 | ⑥ |
| 2-183 | ポール・ジャクレー | 翡翠の女 | 大判錦絵 | 昭和 15 年 | ⑥ |
| 2-184 | 鏑木清方 | 築地明石町 | 特大判錦絵 | 昭和 6 年 | ⑥ |

## 参考出品 ※紙面の都合のため、一部のみご紹介します。

| 絵師・作家等 | 作品・資料名称 | 制作年・発行年 | 所蔵 |
|---|---|---|---|
| 一魁斎芳年 | 騎兵体歩兵体散兵大調練之図 | 慶応 3 年 | 当館寄託（ 新生紙パルプ商事株式会社蔵） |
| ノエル・ヌエット | 東京風景 明治神宮 | 昭和 11 年 | 明治大学図書館 |
| | 木版画 制作道具等 一式 | 現代 | 木版館 |
| | 百鳥画譜絵替りカップアンドソーサー | 現代 | 大倉陶園 |

## Ⅰ-1 大倉孫兵衛旧蔵錦絵画帖 展示用抜粋目録

| 絵師・作家等 | 作品・資料名称 | 制作年・発行年 |
|---|---|---|
| **画帖一** | **展示替予定** | |
| 二代歌川国明 | 端午の節句 | 明治 11 年 |
| | モリムラブラザーズ<br>グリーティングカード・ショップカード 12 種 | |
| | モリムラブラザーズ引札 | |
| **画帖二** | **展示替予定** | |
| 昇齋一景 | 東京名所三十六戯撰 | 明治 5 年 |
| 月岡芳年 | 各大区纏鑑 | 明治 9 年 |
| 水野年方 | 開化好男子 | 明治 23 年 |
| 落合芳幾 | 全盛自筆三十六花撰 | 明治 2 年 |
| 落合芳幾・三代歌川広重 | 隅田川花の賑い | 明治 4 年 |
| 豊原国周 | 新吉原俄獅子之図 | 明治 5 年 |
| 四代歌川豊国 | 五節句の内 平泉楼 弥生の花 | |
| **画帖三** | **展示替予定** | |
| 月岡芳年 | 光明七陽盛 | 明治 9 年 |
| 豊原国周 | 新板狂言外題畫 | 明治 7 年 |
| 豊原国周 | 三人之面寫眞鏡 | |
| 豊原国周 | 都京花 國周萬画 一 河原崎三升 和藤内 | 明治 5 年 |
| 豊原国周 | 尼子十勇士面々会合主家再興評定圖 | |
| 二代歌川国輝 | 関東名物男達競 | 明治 6 年 |
| 豊原国周 | 義経千本桜 | 明治 3 年 |
| 豊原国周 | 本朝廿四孝 | 明治 3 年 |
| 豊原国周 | 魁誉の五役 | 明治 7 年 |
| 豊原国周 | 俳優六花撰 | 明治 6 年 |
| 豊原国周 | 白浪五人男 | 明治 7 年 |
| 三代歌川国貞 | 中宵宮五人侠客 | 明治 12 年 |
| 三代歌川国貞 | 新富座十月狂言 鏡山錦葉 | 明治 12 年 |
| 楊洲周延 | 関ヶ原東西軍記 | 明治 14 年 |
| 歌川国明 | 仮名手本忠臣蔵 | |
| **画帖四** | **展示替予定** | |
| 月岡芳年 | 明治小史年間紀事 皇后宮西京行啓鉄道館発車之図 | 明治 9 年 |
| 楊洲周延 | 今様歌舞上覧図 | 明治 11 年 |
| 井上安治 | 東京九段坂上靖國神社真景 | 明治 20 年 |
| 武田幾丸 | 東京築地ホテル館図 | |
| 三代歌川広重 | 東京汐留鉄道御開業祭礼図 | 明治 5 年 |
| 昇齋一景 | 博覧会諸人群集之図 元昌平坂ニ於テ | 明治 5 年 |
| 進斎年光 | 上野公園地 内国勧業博覧会開業図 | 明治 10 年 |
| 落合芳幾 | 横浜英吉利西商館繁栄図 | 明治 4 年 |
| 三代歌川広重 | 横浜海岸各国商館図 | 明治 4 年 |
| 歌川芳虎 | 西墨利加国 | 慶応 3 年 |
| **画帖五** | **展示替予定** | |
| 楊洲周延 | 舟遊び・身支度／貴人の来訪・花下舞楽図 | |
| 落合芳幾・武田幾丸 | 源氏五十四帖 | 明治 4 年 |
| 安達吟光 | 小学女礼式図解 | 明治 15 年頃 |
| 月岡芳年・小林年参・歌川芳藤 | 徳川十五代記略 | 明治 8 年 |
| 三代歌川広重 | 大日本物産図会 | 明治 10 年 |
| **画帖六** | **展示替予定** | |
| 安達吟光・高橋柯亭 | 大日本史略図会 | 明治 18 年ほか |
| **画帖七** | **展示替予定** | |
| 二代歌川広重 | 東京自慢名勝 | 初版：元治元年<br>改版：不詳 |

※展示替は、およそ以下を予定しております。

第 1 週 8/25 ～ 8/30 画帖 1 ～ 5：表前半 画帖 6：1 ～ 26 図 画帖 7：1 ～ 8 図

第 2 週 9/2 ～ 9/6 画帖 1 ～ 5：表後半 画帖 6：27 ～ 50 図 画帖 7：1 ～ 8 図

第 3 週 9/8 ～ 9/13 画帖 1 ～ 5：裏前半 画帖 6：51 ～ 76 図 画帖 7：9 ～ 16 図

第 4 週 9/16 ～ 9/22 画帖 1 ～ 5：裏後半 画帖 6：77 ～ 100 図 画帖 7：17 ～ 24 図

●動画

木版館、大倉陶園より、以下の制作にかかる動画データをご提供いただきました。

展示室内にて配信しております。

・木版館 彫り作業 葛飾北斎 神奈川沖浪裏

・木版館 摺り作業 川瀬巴水 河口湖

・大倉陶園 大倉陶園歴史と伝統技法

■展覧会データ［展覧会データ］

**特別展　明治錦絵×大正新版画**
**―世界が愛した近代の木版画―**

主催　神奈川県立歴史博物館

協力　株式会社大倉陶園
株式会社ノリタケカンパニーリミテド
新生紙パルプ商事株式会社
公益財団法人大倉精神文化研究所
株式会社セリク
木版館
版画史研究会
東海大学
公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団
鎌倉市鏑木清方記念美術館

後援　日本女子大学、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞社横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、TVK（テレビ神奈川）、ラジオ日本、FM ヨコハマ、J:COM

**■本展をご覧いただくにあたって**

新型コロナウィルス感染症感染拡大防止のため、当館では、諸対策を実施しております。ご来館いただく皆様のご健康を守り、作品や資料の安全を守り、そして当館スタッフの健康を守り、皆様とともに拡大防止に努めたく思います。本パンフレットにも、本展に関する工夫等について、以下に記して、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

○本展示室の換気を十分に実施するため、展示室への入場人数を、最大 40 名に限らせていただきます。

○入場については、先着順とし、人数上限を上回っている場合には、整理券を配布し、待機していただきたくお願い申し上げます。

○展示室内には、およその動線を設けてはおります。十分に距離を保ちながら、ご鑑賞ください。

○展示室内では、密集しての鑑賞を防止するため、解説パネル等を最低限と致しました。そのため､本パンフレットやスマートフォン用解説アプリ「ポケット学芸員」などをご参照ください。

○本展へのご質問がある場合には、会場出口付近に設けます質問用紙にご記入の上、専用の箱にご提出ください。後日、担当よりご回答申し上げます。

○展覧会に関する参考文献等は、当館ミュージアムライブラリーに揃えてございます。あわせてご利用ください。

○体調が悪いなど、緊急の要件がございましたら、お近くの監視スタッフ、受付スタッフなどにお声かけください。

## むすびのことば

特別展「明治錦絵×大正新版画　世界が愛した近代の木版画」をご覧いただき、誠にありがとうございました。

最後に、担当者より、結びのご挨拶を、一筆啓上申し上げます。

コロナ禍に直面し、展覧会が中止となった四月。その後、紆余曲折を経て、七月、復活開催する旨を発表させていただきました。会期が半分となっても、展示の質をさげたくない―その一心で、会場中に満々と作品を並べる結果とあいなりました。計算すれば並ぶかどうかわかるだろうという指摘もごもっともです。しかし、作品を並べるということは、単純に数値的に入ればよいわけではありません。その作品がよく見えるのか、作品同士がうまくつながるのか、全体のバランスやストーリー展開が大切です。数値では到底はかれず、時に展示プランを変え、試行錯誤し、完成されるのです。つまり、実のところ、実際に作品を並べてみないとわからない、そこが展示の面白さです。本やインターネットでは伝わりきらない空気感、ホンモノとの出会い、展覧会は生の演劇であり、“ライブ”なのです。

## カラフルはパワフルだ―

展示作業のあいまに、手を止め、作品に囲まれ、ふとわいて出てきた言葉です。ギリギリまで展示が実現出来るのかわからない、息詰まるような数週間を展示室で作品に囲まれて独り過ごしました。途方に暮れつつも高揚した担当者の心の底から湧き上がった言葉です。コロナ禍で、再び中止する可能性もある、しかしこのまとまりで、この会場で、展示するのは、おそらく最初で最後でしょう。ですから一点でも多く、当初計画から一点と欠けることなく、展示をすることが担当者の最大の責務でした。その重圧に何度もさじを投げ出したくなったとき、支えとなり、力を与えてくれたのが多色摺木版画でした。

現在の高品質高精細な機械印刷が登場する以前、多色摺木版画はまぎれもなく世界最高峰のカラー印刷でした。古来、織物にしても建築にしても、彩られているものは貴重で、それは財力・権力の象徴でした。そして江戸時代、その財と活力は多色摺木版画のかたちで庶民にもたらされました。多色であることを“錦”という漢字で意味をあて、錦絵と称されました。錦の御旗という言葉があるように、カラーであるということに人々は潜在的に価値を見出すのでしょう。錦絵の素晴らしさは、大正以後も新版画のかたちで継承されたことは、本展でお伝えしたとおりです。長らく、この風土に暮らす私たちは、多色摺木版画の美しさに心躍らせ、日々の暮らしを彩り、疲れた心を癒やしてきたのです。パワフルでカラフルな作品たちは、いまや世界中の人々にも愛される存在です。しかし、その技術は今や絶えようとしています。ぜひ、今度はみなさまに木版画へのお力添えいただきたくお願い申し上げます。

本展覧会が、みなさまの明日への活力、その一助になれたとすれば幸いです。

本日はご来館賜り、誠にありがとうございました。

★本展の詳細については、本展図録をご参照ください。
★展覧会のさらに詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。

http://ch.kanagawa-museum.jp/
twitter　@ kanagawa_museum

発行者：神奈川県立歴史博物館
発行日：令和２年（2020）８月 25 日
© 神奈川県立歴史博物館　2020
20200827 第 3 版